

DIGITABLE 第 16 回勉強会レポート

2008 年 6 月 21 日 於：亀戸文化センター（第二研修室）



デジタルフォト基礎講座 3 「Photoshop での基礎調整」

担当：高木大輔 講師

(事例研究) 「写真展（個展）までのスケジュール」

担当：井村奈加子 会員

Photoshop 研究講座 「ピクチャーパッケージ / PDF スライドショー / 他」

担当：平野正志 講師

★デジタルフォト基礎講座「デジタルの基本フロー」

デジタルカメラの調整フロー / JPEG と RAW / ホワイトバランス（色温度）

担当：高木大輔

(要約)

* デジタル画像調整の三つの要素

デジタル画像の良し悪しを決める技術上の要素は露出とホワイトバランスだ。

その具体的な条件は「ハイライトを飛ばさない」「豊富な中間調」「バランスのよいグレー」の三つに集約されるだろう。

* ヒストグラムとは何か？

その画像の良し悪しの判断になるのが、ヒストグラムだ。説明用に“自作”ヒストグラムを見れば、ヒストグラムそのものが画像の構成要素の成分分布を表していることが理解できるだろう。

* ヒストグラムの見方

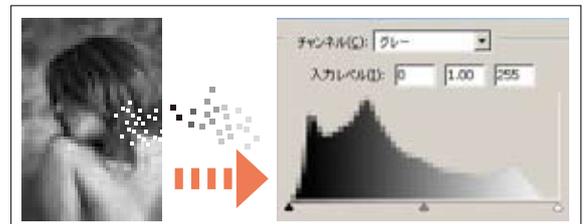
標準的なヒストグラムは、各色ともほぼバランスが揃っているが、いわゆる“グレーバランス”が狂ってくれば、各色の分布範囲に差が出てくる。

人物の画像では赤のチャンネルが他チャンネルより広くなり、風景ではブルーも伸びてくるのはデジタルカメラの一般的傾向だ。ヒストグラムの中心点より画像分布が左に偏れば暗い雰囲気画像、右に偏れば明るい感じの画像ということになる。

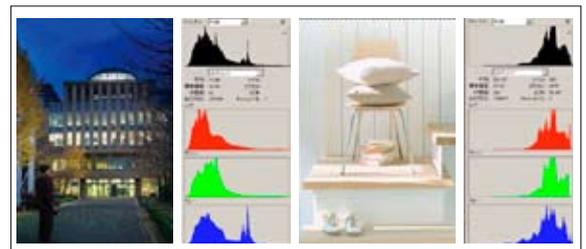
* レベル補正

Photoshop の画像調整の原点はレベル補正だ。明るさの分布のグラフ（＝ヒストグラム）を操作することで、シャドウ、中間調、ハイライトそれぞれの設定が行える。

しかし Photoshop CS 以降、ヒストグラムの常時表示が可能になりリアルタイムでその結果が反映されるため、レベル補正の必要性は薄らいだ。



説明用に自作した簡単なヒストグラム



ヒストグラムの中心点より画像分布が左に偏れば暗い雰囲気画像、右に偏れば明るい感じの画像

* トーンカーブの重要性

レベル補正に変わって、基本画像調整の柱であるのが「トーンカーブ」だ。トーンカーブはレベル補正で出来る補正項目に加え、コントラストの細かい調整が出来る。コンポジットチャンネルによる全体的なコントラストの調整はもちろん、RGBの各チャンネルごとの調整を組み合わせることによって、「カラーバランス」の調整も可能で、慣れてくれば「色温度の補正」を含めて、ほとんどの調整はこれだけで十分な効果を上げられるだろう。

* トーンカーブの操作

トーンカーブの調整操作は直感的で、直線を持ち上げれば明るく、下げると暗くなる。その結果の曲線の状態が赤線で示した45度より急な部分はコントラストが上がり、曲線が寝てくればコントラストも下がる。この操作をRGBのコンポジットチャンネルで行えばコントラストの調整だが、各色毎に細かくカーブを設定することにより、カラーバランスのかなり大きな調整も可能である。

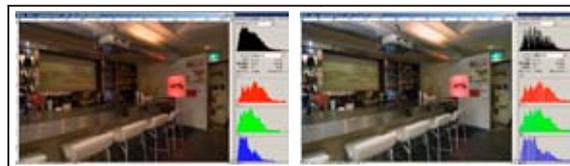
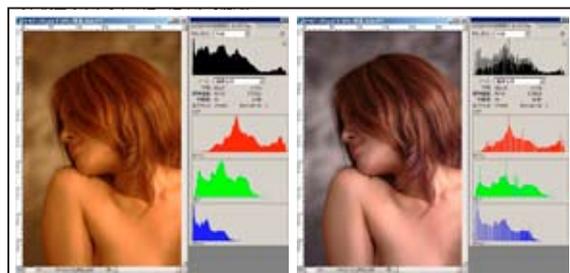
カラーバランス補正のコツは、各チャンネルのヒストグラムを揃える方向でカーブを操作することだ。

* トーンカーブ+色相彩度で仕上げ作業

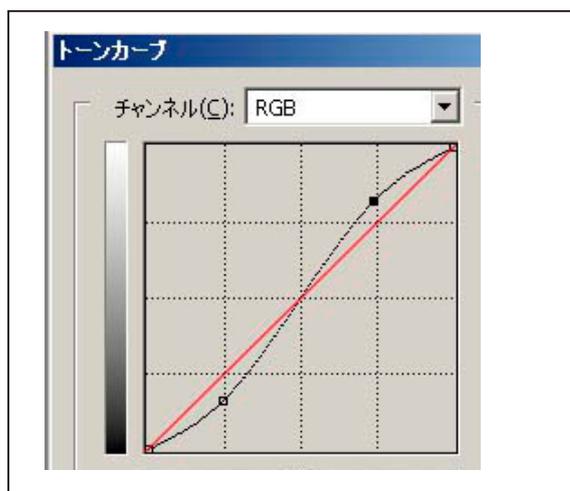
トーンカーブは前述のように、かなり強力な画像補正ツールだが、(ほぼ唯一?の不足として) 相対的に色相を変えることは出来ないので、画像によってはその後「色相・彩度」の調整が必要となる場合がある。トーンカーブの終了後、「色相彩度」の個別色相のチャンネルで意図した色のコントロールを図る。

尚、ターゲットのチャンネルが「グリーンにしたい→だからグリーンチャンネル」とは限らず、グリーンの場合その隣接するイエローやシヤンのチャンネルを操作した方が効果的な場合も多い。

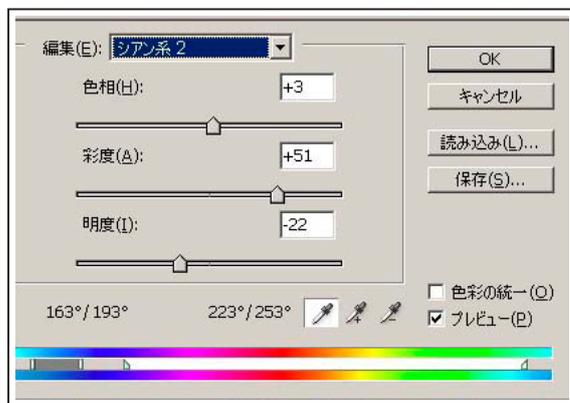
またパレット下部の二本の色帯と、その間の調整する色の範囲を示す「調整域スライダー」は中央の濃い部分が効果100%の領域だ。左右の薄いグレーの部分は外側に行くに従って、なだらかに効果が薄くなる。これらの領域は任意に指定できる。



トーンカーブのRGBの各チャンネルごとの調整で、「カラーバランス」や「色温度の補正」も可能だ



赤線で示した45度より急な部分はコントラストが上がり、曲線が寝てくればコントラストも下がる



パレット下部の二本の色帯と、その間の調整する色の範囲を示す「調整域スライダー」

★ 「写真展 (個展) までのスケジュール」

担当：井村 奈加子 会員

デジタル恒例の会員持ち回りによる事例発表。井村奈加子会員は昨年3月に続き二回目の登場となったが、今回はご自身で計画されている写真展の進行を軸に発表していただいた。

要約)

1999年、日本写真学園の短期講座で写真を学び始めてから、10年後に個展を開催したいと考えてたが、去年浅草に転居した関係で、写真展をするなら浅草で!と、「浅草公会堂」での開催を考えている。



和服姿で発表する井村奈加子会員

「浅草公会堂」の展示ホールは4ヶ月前の抽選なので、1年間辛抱強く抽選に参加したいと考えている。グループ展は何度か経験しているが、個展となると何から何まで自分でやらなければいけないので、いつ抽選に当たってもいいように、自分なりに調べて、リストにまとめている。

展示内容・構成は50枚（半切：40枚、全紙：10枚）として、外注のサポート業者（フレームマン等）から見積もりを取り寄せている。

展示内容ではパノラマ写真やプロジェクターによるスライドショーも検討している。

(質疑応答と問題点)

○会場がかなり広い（173㎡）ので、展示枚数がそれで適切か？また大判プリントも検討してみてもどうか？

広いスペースを飽きさせない構成は、かなり考える必要があるだろう。

○外注業者はある部分が安くても、その他の部分がそうでも無かったりするので、厳密に検討。

○DMやパブリシティも必要枚数や狙いを見定めてから。

○公共の会場のため、関係官庁への届出など規約が煩く、決定からの期間も短いのでかなり大変だろう。公設の写真ギャラリーはそういった負担は大幅に軽減されるので、「浅草」という場所にこだわらなければ検討の余地はある。

○作品内容について

*検討している“種明かし”的構成はやめた方が良さそう。

*型にとらわれない、大判プリントやコルトンなどの出力も検討したら良さそう。

*スライドショーはプロジェクターよりも、むしろ大型テレビの方が効果的？

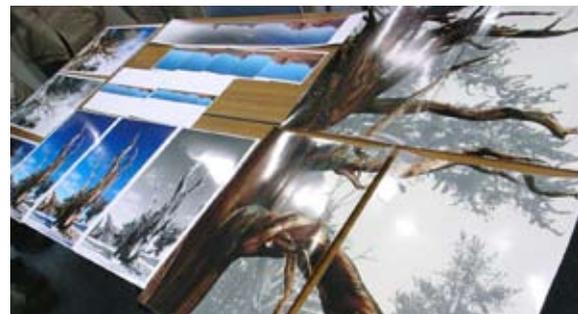
●開催までのスケジュール



浅草公会堂のギャラリースペース



展示内容の検討



作品プリントの一例

★ Photoshop 研究講座「自動処理__3」ピクチャーパッケージ/PDF スライドショー D 300 の低感度撮影/データ保存メディア 担当：平野正志 講師

(要約)

***ピクチャーパッケージ**

ピクチャーパッケージは一枚の写真を繰り返しコピーして、用紙の上にレイヤーで貼り付けるものだ。一枚の写真をサイズ指定して貼り付けるため、数枚同時に印刷するなどが可能で、機能の中には名刺サイズを作る機能もありますので、写真入の名刺なども簡単に出来る。CS 3、エレメント、フォトショップ Ver.7 までではピクチャーパッケージの詳細が違うので注意。



平野正志講師

